

教師ノート

週課	第三年 第三課 第四週
単元	サムエル記・1
テーマ	神を信頼して、困難にチャレンジする
タイトル	ダビデ対ゴリヤテ
テキスト	第一サムエル17章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 第一サムエル17:50 or イザヤ12:2
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	今日は、世界中のこどもたちに大人気のお話です。
□ポイント1 ゴリヤテはイスラエル軍に挑戦してきました(1-11節)	<p>ダビデがサウルの家来になった頃、イスラエルとペリシテに戦いが起こりました(ダビデはサムエルから油注ぎを受けましたが、まだサウルが王で、ダビデはその家来でした)。サウルとイスラエルの兵はペリシテ人を迎え撃つため、戦いの準備をしていました。</p> <p>ペリシテ人は向こう側の山の上に、イスラエル人はこちら側の山の上に、谷をはさんで向き合いました。すると、ペリシテ兵の内から、ひとりの代表戦士が出て来ました。ゴリヤテという、3メートルもある巨人でした。しかも、青銅のかぶと、体には50kg以上のよろい、足には青銅のすね当てという完全武装です。また、肩には青銅の投げ槍を背負っていて、その穂先は、鉄で6kg以上ありました。</p> <p>ゴリヤテは、イスラエル人の陣に向かって叫びました。「オイ、イスラエル人ども！ひとりを選んで、俺と勝負しろ！俺に勝ったら、俺たちはお前らの奴隷になってやる。でも俺が勝てば、お前らが俺たちの奴隷なるのだ。」そういわれても、イスラエル軍の代表になる者はいませんでした。みんな怖がっているのです。民のだれよりも、肩から上だけ背が高く、かつては勇敢だったサウルも、もはや臆病になっていたのでしょうか。何日たっても、だれもゴリヤテと勝負しようとしません。</p>
□ポイント2 ダビデがゴリヤテの挑戦を受けました(12-40節)	<p>その頃、父エッサイは、ダビデに頼んで言いました。「ペリシテとの戦いに言っているお兄さんたちに食べ物を持ってきておくれ。」イスラエル軍の中にはダビデのお兄さんたちも3人入っていたのです。ダビデ自身は、サウルの家来でしたが、お父さんのところで羊飼いの仕事もしていたので、宮殿へ行ったり、帰ったりしていたのです。</p> <p>ダビデが戦地に着いて、お兄さんたちと話しているとき、またゴリヤテが「だれか俺と戦うヤツは出て来い！」と言いました。ダビデは、恐れているイスラエル兵たちに怒って言いました。「生ける神さまがついているイスラエルをバカにすることは、あのペリシテ人はいったい何者ですか！」ダビデにとっては、イスラエルをバカにすることは、神さまをバカにすることだったのです。それを聞いて兄エリアブはダビデを叱りました。</p> <p>サウルはダビデを呼び寄せました。ダビデは「私が行って、あのペリシテ人と戦いましょう。」と言いました。しかしサウルは「無理だ。お前はまだ若すぎる。」と答えました。 ※34～37節を読んでください。ダビデは、いつも羊を守るために、ライオンやクマなどと戦っていました。そんな危険な目にあっても、いつも必ず神さまがダビデを守り、勝利させてくださいました。普段の生活の中で、いつもそういう体験をしていたので、ダビデは神さまを100%信頼していたのです。だから、ゴリヤテと戦っても、神さまが必ず</p>

勝たせてくださると、確信することができたのです。

それを聞いて、サウルはダビデに自分の立派なよろいかぶとを着させ、剣を与えました。しかし、ダビデは「こんなものを着けては、歩くこともできません。慣れていないからです」と言ってそれを脱いでしまいました。それから自分の杖を手に取り、川から5つのなめらかな石を選んできて、それを羊飼いの使う投石袋に入れました。そして、石投げを手にして、勇敢にゴリヤテの前に出て行きました。

⑤ **投石袋**: 羊飼いや戦士は石投げを携えていたが、投げる石は肩から下げた袋に入れて持ち運んだ。

石投げ: 革などで作られ、中央は少し幅が広くなり、くぼみがある。このくぼみに石を入れ両端を片手で持ち、頭上で振り回して一端を放し、石を飛ばす。一般に羊飼いが家畜を野獣から守るために用いた。(いのちのことは社「新聖書辞典」より)

□ポイント3 ダビデはゴリヤテに勝ちました(41-58節)

ゴリヤテは、ダビデが若くて、ハンサムな少年だったので、バカにしました。しかしダビデは少しも恐れず、堂々と言いました。※45～47節を読んでください。ダビデは、神さまがともにいて戦ってくださると信頼しきっていました。そして神さまは必ず勝利させてくださると確信していたのです。

いよいよゴリヤテが、ものすごい迫力で近づいてきます。ダビデもすばやく戦場を走って行き、勇敢に立ち向かっていきます。ダビデは袋の中に手を差し入れ、さっき拾った川の石の一つ、取り出しました。そしてそれをサッと石投げ器に入れました。頭の上でそれをブルンブルンと振り回しながら、狙いを定めます。そして、それをビュン！と放ったとき、石は見事にゴリヤテの額に命中しました。石は額に食い込み、彼はドッシーンとうつぶせに倒れました。

こうしてダビデは、石投げと一つの石で、巨人ゴリヤテに勝ちました。よろいも着けず、剣ももたない羊飼いのダビデが、完全武装の3メートルの戦士をやっつけたのです。ペリシテ人たちは、ゴリヤテが死んだのを見て逃げ出しました。サウルやイスラエルの兵たちも、ダビデの強さに驚きました。

□結論 ダビデは神さまを信頼し、ゴリヤテに勝利しました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

1) 普段の日常生活で、神さまがともにおられることを体験しよう！

みなさんは、イスラエル人のように、大きな問題・壁・敵を前にして意気消沈していませんか？(勉強・スポーツ・習い事・遊びなど) ダビデは、なぜ恐れずゴリヤテに立ち向かえたのでしょうか？神さまが必ず助け、勝利させてくださると信頼しきることができたからです。ダビデは、普段から、生活の中で神さまに信頼し、守っていただく体験を積み重ねていました。神さまはいきなり大きな敵と戦わせるようなことはなさいません。あなたも、日常の小さなことから、神さまに頼っていきましょう。そうすれば、いつも神さまの守りを体験できます。例えば、日常生活の中で、困ったな…と感じるとき(忘れ物をした、失敗したけど正直にゴメンなさいと謝る勇気がない)、不安・絶対ムリ…と感じるとき(大事な奉仕を任される、いじめられている友だちを助けるなど)があると思います。そんなとき、神さまにお祈りをしよう。神さまがいつしよにいてくださることを信じよう。そうすれば、あなたも神さまを体験できます！そのような体験の積み重ねから、大きなことにも恐れずにチャレンジできる信仰を養いましょう。あなたはダビデのように、神さまに選ばれ、油を注がれた者です。神さまがともにいてくださいますから、何でも恐れずチャレンジできるようになりましょう。

2) 暗唱聖句をしっかりとしよう！

ダビデは、小さな石で戦いましたが、私たちの戦いの武器は、祈りとみことばです(エペソ6:17、18)。ディボーションや暗唱聖句でみことばを蓄えよう！いつも聖霊に満たされて祈りを積み重ねよう！ダビデは日ごろからまじめに働き、石投げの訓練をし、時間を無駄に使っていませんでした。また羊飼いをしながら、賛美や祈りを忘れませんでした(詩篇)。そんなダビデだからこそ、神さまは彼が懸命に投げた1つの石をゴリヤテに命中させてくださいました。あなたも、みことばの勇士として、いつも祈りとみことばに専念し、準備しておきましょう。